

関東労災病院 ICT 被災地支援の報告

関東労災病院総合内科、ICT 岡 秀昭

この度、仙台若林地区の被災地にて感染制御活動に協力させて頂きましたので、ご報告いたします。当院は感染症専門医、感染制御認定看護師、薬剤師、細菌検査技師による感染制御チーム（ICT）による感染症診療支援を日頃から活発に行っています。東日本大震災による診療支援の一環として、現地からの要請により、4月25日より2泊3日の日程で感染制御に特化した活動をいたしました。参加したのは当院 ICT の中心メンバーである医師、看護師2名、薬剤師の計4名のチームです。

被災地ではノロウイルスと思われる感染性腸炎の発症があり、我々の任務は被災地における個々の患者さんの診療ではなく、避難所そのものを診療し、感染症そのものの流行を終息させることでした。そのため、3日間にわたり合計9カ所の避難所を回診し、各避難所の流行状況を把握し、それぞれの問題点、改善点の拾い上げと指導を行いました。当院看護師によるノロウイルスの吐物処理キットの配布、実演指導は大変に好評を得ました。薬剤師による消毒薬の管理、使用法もお役に立ったようです。

活動を通じて印象に残ったことは、最も劣悪な環境と思われた体育館の避難所では、1件も発熱、下痢の患者が発生しておらず、一方で全てが個室となっているホテルを利用した環境に比較的恵まれた避難所で感染性腸炎が流行していました。体育館の避難所では、入り口から厳しく手洗いが徹底されていましたが、ホテルでは徹底が不十分な印象でした。感染制御の基本はやはり手指衛生であると再認識した次第です。良いと思われた点は、現場に前向きなコメントをするように心がけました。改善点については、現地の事情を考慮し、可能かつ効果が大きと思われる点については指摘をさせて頂きましたが、現地のスタッフは絶え間ない努力をされており、細かい点、あまり現実的ではない指導は致しませんでした。

被災地も今後は梅雨、やがては夏場を迎え、気温が上昇すると思われます。再度の感染性腸炎の流行が最も懸念されます。また、ご高齢者も多く、長期避難の疲労からも肺炎など引き起こし体調を起こされる被災者もいらっしゃるでしょう。瓦礫処理による破傷風の発生も懸念されており、今後も感染症の制御は大きな課題の一つと思われます。短期間での活動でありましたが、今回の指導

が被災者の方々の今後の健康維持に少しでもお役に立つようであれば幸いに存じます。

最後に、今回の活動にご支援頂きました当院院長、副院長を始めとした首脳陣、現地スタッフ、留守の間に診療を支えてくださった当院総合内科メンバーに感謝いたします。